

「第4回 三好市水道事業等経営審議会」 会議録

開催日時:平成29年9月19日(火) 13:00~15:30

開催場所:三好市役所 本庁3階 第1会議室

出席者:(委員)10名

(事務局)水道課職員2名

1. (審議事項1) 第3回会議録の確認について

議長	第4回三好市水道事業等経営審議会を開催します。 前回の審議会で審議委員名簿をもとに審議会ごと2名の方を指名することとなっております。本日の会議録署名者は8番委員、9番委員を指名します。よろしくお願ひします。 まず、第3回会議録の確認について、事務局より説明をお願いします。
事務局	第3回会議録について、先日郵送をさせていただきました。内容についてご意見等なければ第3回の署名者に署名をお願いしたいと考えます。修正がありましたら、修正後、署名をお願いします。その後、ホームページにて公開をさせていただきたいと思ひます。
議長	内容についてはいかがか。
委員	異議なし。
議長	それでは、この内容で第3回会議録署名者2名に署名をお願いします。

2. (審議事項2) 過去の決算状況について

議長	過去の決算状況について事務局から説明をお願いします。
事務局	本日は、過去の決算状況、平成29年からのシミュレーション、施設資産の内訳の3点についてご審議いただきたいと思ひます。まず初めに過去の決算状況についてご説明させていただきます。 (資料「過去の決算状況」説明)
議長	ただいま事務局より過去の決算状況について説明いただきました。平成18年度までに第11期拡張事業が行われ、減価償却費が増加したことにより平成19年度には経常損失が約1億円にもなっている。それを解消するためこと、平成20年度、24年度の2度料金値上げを実施してきている。値上げの際に、料金に転嫁しきれないところについては一般会計から繰入金をいただいている。しかしながら、決算収支は連続でマイナス、現金残高については年々と減ってきているということです。過去の決算状況を把握したうえで次の収支計画から料金設定を行っていくことになるかと思ひますが、お気づきの点はありませんか。

委員	決算状況を見ますと、平成 28 年度の累積欠損金が 3 億 9,834 万円ということだがこれは赤字ということか。
事務局	赤字の累積がこの額になるということです。
委員	赤字の累積額は約 4 億ということだが、現金については、2 億 9,000 万円持っているのですよね。累積欠損金のほうが現金より多いが、累積欠損金となった分の金額についてはどこから工面しているのか。
事務局	一般会計からの出資金でありましたり、企業債の借入金でありましたりがありますので、欠損金がありながらも現金を保有できているかと思えます。
議長	そういった出資金や企業債、それに補助金など資金調達はできているものの、投資に対しての運用ができてないということでしょうか。
委員	減価償却費は現金を伴わない経費なので、赤字となってもその分現金は残るのではないか。
事務局	委員さんご指摘の通り、減価償却費につきましては現金を伴わない経費でございますので、その分現金は残ります。その現金につきましては、資本的支出の企業債の返済や、建設改良費を支出するにあたって資金の不足分にあてることとなりますので、現金が減っている状態があります。
委員	支払利息が毎年 5,000 万円もあるが、償還金 1 億 2,000 万円に対して、こんなに高いのか。
事務局	そうです。昔は利息が 4% を超す時代もありまして、このような金額となっております。
委員	今、金利は低くなっているが、借り換えなどはさせてくれないのか。
事務局	過去には借り換えのできたものもあり、支払利息が圧縮できたこともありますが、現状は借り換えさせてもらえないです。
委員	過去の決算状況を見させていただきますと、要するに、毎年発生している赤字＝欠損金を何とかして黒字化したいかということか。
事務局	まずは毎年の決算について、黒字化させたいというところがあります。それと、もしかするとこちらの方が大事になってくるかと思いますが資金ショートをさせないという経営が求められるかと思えます。
委員	平成 28 年度で 5,300 万の赤字ということだが、これを黒字にするとなればどのような料金設定となるか。
事務局	現在、旧上水地区の加入戸数が約 1 万戸ですので、1 戸あたりでとなり

	ますと年間 10,000 円、月 850 円くらいでしょうか。
委員	これを行うとしたら何%の値上げとなるか。
事務局	前回の資料で出ささせていただきました、旧上水道の 1 戸当たり月平均使用額が 4,393 円ですので、約 20%ということになります。
委員	前にも言いましたように、これだけの負担を利用者に求める前に、まだ経費削減できるところはないか。
委員	今は地域創生などでもコンパクトシティー構想など、社会状況の変化に対応した政策を求められてきているかと思う。整備については、あれもこれもやるというのではなく、社会構造を予測した整備に変えていかなければならないのではないか。
事務局	人口減少、過疎化、消滅集落などの人口問題については、三好市だけの問題でなく全国的な問題であります。徳島新聞にもでました水道事業の広域化もこういった同じような問題を抱える自治体で課題を解決していこうということではないかと思えます。委員さんのご指摘をいただきましたコンパクトシティー構想なんかは、過剰な設備の統廃合の検討の際に大事なことではあると思うのですが、現在整備済みの給水区域を狭めていくということは非常に難しいことであると考えます。
議長	現在、決算状況についていろいろ発言をいただきまして、将来にわたるような話も出てきていますので、次の収支計画シミュレーションについて審議を進めていきたいが、いかがか。
委員	わかりました。

3. (審議事項3) 収支計画のシミュレーションについて

議長	収支計画のシミュレーションについて事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料「収支計画のシミュレーションについて」説明)
議長	ただいま事務局より収支計画のシミュレーションについて説明いただきました。先ほどの決算状況とこれからの収支計画を総合的に見ていただき、このことで何かお気づきの点はございますか。
委員	シミュレーションでは、一般会計からの繰入金が減ってきているが、これは決定事項なのか。
事務局	今年度の簡易水道統合に伴い、事務費の不足分について一般会計より繰入れていただいております。繰入金につきましては、総務省より「繰入基準」が通知されておりますが、委員ご指摘の繰入金につきましては基準外の繰入金の部分となってきております。一般会計におきましても厳しい財政状況にあり、今後については基準外の繰入金については

	<p>圧縮させることが求められておりますので、計画目標としては年々減少させていただいております。額自体がすでに決まっているわけではありません。</p>
委員	<p>ということは、これからの交渉次第ということではないか。国であれば、各省庁が財務省に要求するように、水道課として財政担当課に要求する交渉は行わないのか。</p>
事務局	<p>旧の簡易水道も統合されましたので、三好市水道事業を行う公営企業となりました。よって、経営に伴う経費は受益者負担の原則のもと料金収入をもってあてる独立採算制が原則とされております。また、水道は住民の生活において必要不可欠とされますものですので、安心安全はもちろんのこと安定的に供給することが求められます。一般会計に頼った経営をし、一般会計からの繰入金を断たれたことによって経営が破綻してしまうようなことではいけませんので、経営の安定性ということから減少させていく計画としております。</p>
議長	<p>独立採算制という観点からは一般会計に依存できないということは理解できますが、市民の生活がどうなるかという視点も今後の料金設定の議論には必要でないかと考えます。</p>
委員	<p>人口減少に伴って給水収益は減っていく、他会計からの補助金は減っていくということだが、支出については現状維持となっているようだが。</p>
事務局	<p>減価償却費については資産台帳によって管理しておりますので、予測される金額を設定しております。その他の費用につきましては、平成 29 年度予算については、経営統合もあり費用が多く計上されているので、精査しなおしたものを平成 30 年度の経費として設定しております。それ以降につきましては、現状の経営規模を維持するとなると同等の費用が発生すると考えております。</p>
委員	<p>経費ありきで、足りないものを値上げで補おうとしていないか。</p>
事務局	<p>今回の計画は、最初の叩き台であります。先ほど説明をさせていただきました決算状況とシミュレーションを合わせた中で、支出について改善すべき点も審議していただければと考えております。</p>
委員	<p>修繕費について、毎年 2,000 万円という金額を設定しているが、使用額には波が出てくると思うので一律に設定しているのはいかがなものかと思うが。</p>
事務局	<p>修繕費などは変動費の中でも年度によって金額の変動が大きくなっていくかとは思いますが、そうなりますと、大きな修繕があった年度となかった年度で決算が大きく変わりますので不安定な経営となります。また、今までは必要な時に必要なものだけ予算化し修繕を行ってきたわけですが、裏を返しますと予算が無いと修繕ができないといったことがありました。今後は平準化した予算を計画し、その年に不要だった分は引当金として積み立てて、必要な年に支払うことにより安定的な経営を目指</p>

	したいと考えております。
委員	その他経費に 1 億 3,500 万円と計上されておりますが、どのような経費かその内訳を教えてください。
事務局	大きく分類させていただきますと、業務委託 6,000 万円、薬品費 1,000 万円、通信運搬費及び光熱費 1,000 万円、共済負担金 2,000 万円、退職手当等負担金 1,200 万円、手数料 300 万円、その他 2,000 万円となります。
委員	業務委託費にはどのようなものがあるのか。
事務局	金額の大きいところでは、水質検査委託料に 2,500 万円、検針業務委託料 1,400 万円、各施設点検維持管理委託料 800 万円、各種システムの保守点検業務委託料 600 万円となります。
委員	こういったものは毎年必要なものか。
事務局	平成 29 年度につきましては、簡易水道統合に伴い、通年では不要な支出も有りましたので、こちらを省いたものを平成 30 年度以降については設定させていただいております。現状の施設を維持するとなりますと、今後も同等の金額が必要になってくると考えております。先ほどお話しさせていただきました様に今回の計画は、最初の叩き台であります。支出の中でお気づきの点がございましたら、ご指摘いただければと思います。
委員	費用構成の分類が大きすぎて詳細が分からないのだが。
事務局	今回は水道事業経営戦略の収支計画を基に収支シミュレーションを作成させていただいたことや、説明時間の関係上、大まかな説明となつてしまい申し訳ありません。次回の審議会では、費用構成の詳細な資料を作成したいと考えますのでよろしく申し上げます。
委員	わかりました。

4. (審議事項4) 施設資産の内訳について

議長	施設資産の内訳について事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料「施設資産の内訳について」説明)
議長	収支シミュレーションでは、耐震計画による 5,000 万円の建設改良費のみを計上していたとの説明でしたが、今の説明によりますと管路のうち約 15%が経年化年数を超えているということで、費用が更に必要ということですね。
事務局	そうです。収支シミュレーションでは、資金がありませんので最低限の支出として耐震計画による 5,000 万円を計上させていただきました。しかし、現状としては約 15%が経年化年数を超えており、漏水事故等の原

	<p>因ともなっておりますので、布設替えを行いたいという思いがあります。</p>
委員	<p>経年化年数を超えたものを全て替えるとなると、経費はどれくらい必要か。</p>
事務局	<p>管路の素材、口径によって経費は違いますが、平均しますと 1mあたり約 3 万円必要になる試算です。経年化年数を超えたものが 14,346m ですから、4 億 3,000 万円ほど必要になってくるかと思います。その後につきましても、管路の耐用年数が 40 年ですから、経年化年数を超えたものを順番に替えていくとなりますと、総延長が約 400km ありますから、毎年 10km、すなわち 10,000m の更新となりますので毎年 3 億円という額が必要となってきます。これは管路だけの費用となりまし。これに浄水場の更新費用をいくらかは積み上げていかなければならないであろうと考えております。</p>
委員	<p>建設改良費用が必要なことはわかった。事務局としての素案はないのか。</p>
事務局	<p>まず、今回説明させていただきました収支シミュレーションを叩き台とさせていただいたところではありますが、収入面では今までの審議会の意見等をふまえて、1,000 円の値上げを想定させていただきました。段階的に行うべきとの意見をいただきましたので、500 円ずつ 2 度に分けて段階的な値上げをしたいという事務局の考えを出させていただいたつもりです。投資につきまして、特に建設改良費については多額であり、かつ資本が不足している段階でどこまでの更新費用を見積もるかというところで委員皆様の意見をお聞きするということで、施設資産の内訳等を説明させていただきました。施設の更新費用が必要であるということをご理解いただいたということで、必要な投資費用については計上するという案を次回提出させていただきたいと考えますのでよろしいでしょうか。</p>
議長	<p>必要な投資は行う案を作成してください。</p>
委員	<p>収支計画作成の話になるので、人件費についても意見をさせていただいてよろしいか。現在 15 人という職員数についてはいかががお考えか。</p>
事務局	<p>確かに、有収水量が減ってきますので人員についても考えるところでしょうが、給水区域が減るわけではなく、今の施設を維持するとなるとこの人員は必要であると考えております。</p>
委員	<p>人数が必要なのはわかる。それを臨時職員等で代替することによって費用が削減できるのではないか。</p>
事務局	<p>まず、我々が公営企業ということで行政の仕事の中でも特殊な部類になってくるかと思います。その中で、検針業務でありますとか、小規模な修繕については業務委託とすることで人員を削減してきた経緯があります。現在直営に行っている業務においては、経験値を要す業務であり、また技術の伝承ということから臨時職員やパートにて単年でお仕事</p>

	<p>をお願いするにはそぐわない業務にあたるかと考えます。施設の管理方法を含めた業務の見直しを行い、総人件費の削減については努力したいと考えます。</p>
<p>委員</p>	<p>水道は生活の基本であり、特に子育て世代なんかは水を多く使う。料金値上げによる生活の影響を考えると値上げは反対である。人件費は一般会計から支出していただいて、料金の値上げを行わないようにしていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>公営企業という性質上、人件費については料金収入等の経営活動の中から支出する必要があるかと思えます。一般会計との関係についても、第5回または第6回で財政担当者にもこの審議会に入っていただき説明をいただく予定です。</p>
<p>議長</p>	<p>本日も委員の皆様から多くの意見をいただきました。次回からより踏み込んだ議論となりますので、皆さんで激論してより良いものとしましょう。これで第4回三好市水道事業等経営審議会を終了する。</p>

会議録署名 平成 年 月 日
